どのようにして歴史の授業を作るのか（１）

── 高等学校学習指導要領・地理歴史科の記述を手がかりにして ──

岡　明　秀　忠

1. はじめに

1) 問題意識

教員養成，なかでも教科教育研究に携わる者にとって，学習指導要領は重要な研究対象である。学習指導要領には，教科の目標，内容，内容の取り扱いなどが記されている。つまり，社会科，地理歴史科，公民科で，どのような授業をめざすべきかが記されている(1)。だからこそ研究者も，教師も，教育実習生も学習指導要領を読む必要がある。

この学習指導要領であるが，実は学校現場で頻繁に見られることはない。より頻繁に，より身近に見られるのは，学習指導要領に基づいて作成された教科書である。この教科書は，近年児童・生徒の学習のために様々な配慮がなされている(2)。

社会科，地理歴史科，公民科の授業を検討する際に，この学習指導要領と教科書が重要な対象となる。しかし，授業を検討する際に，学習指導要領と教科書だけが対象でないことは自明である。その他に，児童・生徒の様子，教師の発問・指示・説明，児童・生徒への対応などにも，私たちは十分に配慮する必要がある。授業に関わること全てが，重要な対象なのである。

授業をどのようにして作るのか。とりわけ，社会科，地理歴史科，公民科の

授業をどのようにして作るのか。授業作りの出発点やその後の展開の仕方は，授業者によって様々である。学習指導要領の分析から始める者，教科書の分析から始める者，専門書の分析から始める者，子どもの状況の分析から始める者など，様々である。授業作りの出発点やその後の展開の仕方に，これが正解というものはない。最終的に，児童・生徒の前で，彼らに有意義な経験，つまり，社会に関する知識を広げ，社会に関する知識を深める経験（概念的知識を習得させる経験）をさせることが重要である。

しかし，教職をめざす学生の授業作りを見ていて感じるのは，彼らの作った授業を通じて，社会に関する知識を広げ，社会に関する知識を深める経験を児童・生徒にさせているのかということである。例えば，「元寇」をテーマにした授業作りを学生に課したところ，学生の動きは大きく二つに分かれた。

① 学生は，ウィキペディアで「元寇」という言葉を調べ，それをまとめた。以前の学生は，図書館や情報センターなどで調べものをした。しかし，近年，iPhone や iPad などの情報端末が普及し，学生は図書館などに行かずとも，情報に接することができるようになった。学生は，直ぐにこれらの情報端末を使い，情報にアクセスした。ウィキペディアを見るのは，概要をつかむ上では構わない。しかし，学生は，ウィキペディアに書かれていることを，吟味せずにそのまま写していた。

② 学生は，教科書会社の作成する教師用指導書を見つけ，「元寇」の単元計画を調べ，それをまとめた。以前は，学生の出入りが可能な教職課程多目的ルーム(3) に教科書を配架し，学生の出入りが難しい教職課程共同研究室に教師用指導書を配架した。「教師用指導書を使用しないまま埃が被るよりは，いっそのこと学生に使わせた方が良い」と考え，近年，教職課程多目的ルームに教師用指導書を配架した。教師用指導書を見るのは，概要をつかむ上では構わない。しかし，学生は，教師用指導書に書かれていること

を，吟味せずにそのまま写していた。

学習指導案の単元目標，本時の目標，本時の指導過程などを，学習指導要領や教科書だけで考え出すのはかなり大変である。学習指導要領や教科書をしっかり読んで，児童・生徒に何をどのように考えて欲しいのか，何のために授業をするのかを問い詰めないと，単元目標，本時の目標，本時の指導過程などは出てこない。自らが問い詰め，ひねり出したものが，学生の授業作りの血となり，肉となる。

教師用指導書に書かれている単元目標，本時の目標，本時の指導過程などを書き写した学生の学習指導案は綺麗である。しかし，作成した学習指導案に基づいて，実際に模擬授業をさせると散々な結果になる。自分が考え出したものでないので，学生の授業作りの血となり，肉とならない。

学習指導案を作成する作業[(4)]は，4人一組の班活動で行わせている。4度の模擬授業の実施日に，その当日の担当者が模擬授業をする。1人1回模擬授業が回ってくる勘定になる。模擬授業の実施日の前に準備の日がある。その際，担当者以外の者は，当日の担当者を支えるのが役目である。その役目は，担当者の考えを全て承認するのではなく，担当者が考えていない部分に問いを投げかけ，皆で検討し，より良い授業をつくることにある。ところが，ウィキペディアや教師用指導書を丸写しする作業では，疑問は出てこない。結果的に，適当に授業作りをおこない，雑談の時間になる傾向がある[(5)]。

2） 研究方法

これから，どのようにして歴史の授業を作るのかについて検討する。しかし，紙幅も限られているので，本稿では，高等学校学習指導要領・地理歴史科の記述をもとに，学習指導要領がどのような地理歴史科の授業をイメージしているのかを明らかにする。次稿以降で教科書の記述をもとに検討する。

学習指導要領・地理歴史科は，3款に分かれ，第1款が「目標」，第2款が「各科目」，第3款が「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」となっている。第2款の「各科目」は，世界史A，世界史B，日本史A，日本史Bなどの科目毎に，目標，内容，内容の取扱いが記されている。

本稿では，1989（平成元）年版（以下，89年版と略），1999（平成11）年版（以下，99年版と略），2009（平成21）年版（以下，09年版と略）の3つの学習指導要領の記述をもとに検討する[6]。

2. 高等学校学習指導要領の分析 ── 地理歴史科を中心に ──

1) 高等学校学習指導要領・地理歴史科には何が書かれているのか

学習指導要領に記載されている順（世界史A，世界史B，日本史A，日本史Bの順）に内容構成を検討する。

① 世界史A

89年版では，諸文明の歴史を押さえた上で，近現代史を学ばせる内容構成になっている。通史ではなく，近現代史を重視した世界史になっている。

99年版では，諸地域世界の歴史と交流圏の歴史を押さえた上で，近現代史を学ばせる内容構成になっている。89年版と同様に，通史ではなく，近現代史を重視した世界史になっている。

09年版では，89年版，99年版と同様に，近現代史を重視した世界史になっている。他方，89年版，99年版とは異なり，「導入単元」[7]（世界史へのいざない）や「歴史学習を深める単元」[8]（持続可能な社会への展望）が組み込まれている。そして，地理的条件や日本の歴史との関連づけ[9]に配慮するような内容構成になっている。

89年版　世界史A	99年版　世界史A
(1)　諸文明の歴史的特質 ア　文明と風土 イ　東アジアと中国文化 ウ　南アジアとインド文化 エ　西アジアとイスラム文化 オ　ヨーロッパとキリスト教文化 (2)　諸文明の接触と交流 ア　2世紀の世界 イ　8世紀の世界 ウ　13世紀の世界 エ　16世紀の世界 オ　17・18世紀の世界 (3)　19世紀の世界の形成と展開 ア　19世紀のヨーロッパ・アメリカ イ　産業革命と世界市場の形成 ウ　アジア諸国の変貌と日本 (4)　現代世界と日本 ア　二つの世界大戦と平和 イ　アメリカ合衆国とソビエト連邦 ウ　民族主義とアジア・アフリカ諸国 エ　地域紛争と国際社会 オ　科学技術と現代文明 カ　これからの世界と日本	(1)　諸地域世界と交流圏 ア　東アジア世界 イ　南アジア世界 ウ　イスラーム世界 エ　ヨーロッパ世界 オ　ユーラシアの交流圏 (ア)　海域世界の成長とユーラシア (イ)　遊牧社会の膨張とユーラシア (ウ)　地中海海域とユーラシア (エ)　東アジア海域とユーラシア (2)　一体化する世界 ア　大航海時代の世界 イ　アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制 ウ　ヨーロッパ・アメリカの諸革命 エ　アジア諸国の変貌と日本 (3)　現代の世界と日本 ア　急変する人類社会 イ　二つの世界戦争と平和 ウ　米ソ冷戦とアジア・アフリカ諸国 エ　地球社会への歩みと日本 オ　地域紛争と国際社会 カ　科学技術と現代文明

09年版　世界史A	
(1)　<u>世界史へのいざない</u> ア　自然環境と歴史 イ　日本列島の中の世界の歴史 (2)　世界の一体化と日本 ア　ユーラシアの諸文明 イ　結び付く世界と近世の日本 ウ　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 エ　アジア諸国の変貌と近代の日本	(3)　地球社会と日本 ア　急変する人類社会 イ　世界戦争と平和 ウ　三つの世界と日本の動向 エ　地球社会への歩みと課題 オ　<u>持続可能な社会への展望</u>

89年版　世界史B	99年版　世界史B
(1)　文明の起こり ア　オリエント文明 イ　地中海文明 ウ　インド文明 エ　中国文明 (2)　東アジア文化圏の形成と発展 ア　遊牧民族の活動と東アジア世界の形成 イ　中国社会の変遷と隣接諸民族の活動 ウ　中華帝国の繁栄と朝鮮，日本 (3)　西アジア・南アジアの文化圏と東西交流 ア　イスラム世界の形成 イ　イスラム世界の発展 ウ　南アジア・東南アジア世界の展開 エ　ユーラシアの東西交流 (4)　ヨーロッパ文化圏の形成と発展 ア　東西ヨーロッパ世界の形成 イ　ヨーロッパの変革と大航海時代 ウ　17・18世紀のヨーロッパと世界 (5)　近代と世界の変容 ア　市民革命と産業革命 イ　アメリカ合衆国とアメリカ文明 ウ　アジア諸国とヨーロッパの進出 エ　帝国主義とアジア・アフリカ (6)　20世紀の世界 ア　二つの大戦と世界 イ　ソビエト連邦と社会主義諸国 ウ　アメリカ合衆国と自由主義諸国 エ　アジア・アフリカ諸国の民族運動と独立 (7)　現代の課題 ア　国際対立と国際協調 イ　科学技術の発展と現代文明 ウ　これからの世界と日本	(1)　世界史への扉 ア　世界史における時間と空間 イ　日常生活に見る世界史 ウ　世界史と日本史とのつながり (2)　諸地域世界の形成 ア　西アジア・地中海世界 イ　南アジア世界の形成 ウ　東アジア・内陸アジア世界の形成 (3)　諸地域世界の交流と再編 ア　イスラーム世界の形成と拡大 イ　ヨーロッパ世界の形成と変動 ウ　内陸アジアの動向と諸地域世界 (4)　諸地域世界の結合と変容 ア　アジア諸地域世界の繁栄と成熟 イ　ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ウ　ヨーロッパ・アメリカの変革と国民形成 エ　世界市場の形成とアジア諸国 オ　帝国主義と世界の変容 (5)　地球世界の形成 ア　二つの大戦と世界 イ　米ソ冷戦と第三勢力 ウ　冷戦の終結と地球社会の到来 エ　国際対立と国際協調 オ　科学技術の発達と現代文明

② 世界史 B

89 年版では，文明のおこり，文化圏毎の歴史を押さえた上で，近現代史を学ばせる内容構成になっている。古代から現代までの世界の歴史を隈無く取り扱う通史になっている。

99 年版では，諸地域世界の歴史を押さえた上で，地球世界を学ばせる内容構成になっている。89 年版と同様に，古代から現代までの世界の歴史を隈無く取り扱う通史になっている。他方，89 年版とは異なり，「導入単元」（世界史への扉）が組み込まれている。

09 年版では，89 年版，99 年版と同様に，諸地域世界の歴史を押さえた上で，地球世界を学ばせる内容構成になっている。89 年版から引き続き，古代から現代までの世界の歴史を隈無く取り扱う通史になっている。他方，99 年版に引き続き，「導入単元」（世界史への扉）が組み込まれ，新たに「歴史学習を深める単元」（時間軸，空間軸，資料の読み取り，資料の活用・探求）が組み込まれている。そして，世界史 A と同じように地理的条件や日本の歴史との関連づけ(10)に配慮するような内容構成になっている。

09 年版　世界史 B

(1)　世界史への扉
　ア　自然環境と人類のかかわり
　イ　日本の歴史と世界の歴史のつながり
　ウ　日常生活にみる世界の歴史
(2)　諸地域世界の形成
　ア　西アジア世界・地中海世界
　イ　南アジア世界・東南アジア世界
　ウ　東アジア世界・内陸アジア世界
　エ　時間軸からみる諸地域世界
(3)　諸地域世界の交流と再編
　ア　イスラーム世界の形成と拡大
　イ　ヨーロッパ世界の形成と展開
　ウ　内陸アジアの動向と諸地域世界
　エ　空間軸からみる諸地域世界
(4)　諸地域世界の結合と変容
　ア　アジア諸地域の繁栄と日本
　イ　ヨーロッパの拡大と大西洋世界
　ウ　産業社会と国民国家の形成
　エ　世界市場の形成と日本
　オ　資料からよみとく歴史の世界
(5)　地球世界の到来
　ア　帝国主義と社会の変容
　イ　二つの世界大戦と大衆社会の出現
　ウ　米ソ冷戦と第三世界
　エ　グローバル化した世界と日本
　オ　資料を活用して探究する地球世界の課題

③　日本史 A

89 年版では，古代・中世の日本の歴史を概観した上で，近世以降の日本の歴史を学ばせる内容構成になっている。通史ではなく，近現代史を重視した日本の歴史になっている。

99 年版では，89 年版とは異なり，古代・中世の日本の歴史を概観せずに，近代以降の日本の歴史を学ばせる内容構成になっている。そして，「導入単元」（歴史と生活）が組み込まれている。

89 年版　日本史 A	99 年版　日本史 A
(1)　古代及び中世の日本とアジア ア　古代国家の形成と大陸文化の摂取 イ　中世社会の展開とアジア世界との交流 (2)　幕藩体制の形成と推移 ア　ヨーロッパ文化との接触と鎖国 イ　幕藩体制の確立と都市及び農村の経済や文化 (3)　日本の近代化への道と 19 世紀の世界 ア　国際環境の変化と幕藩体制の動揺 イ　新思想の展開と教育の普及 (4)　近代日本の形成と展開 ア　欧米文化の導入と明治維新 イ　近代国家の成立と国際関係の推移 ウ　近代産業の発展と国民の生活 エ　政党政治と学問や文化の進展 オ　両大戦をめぐる国際情勢と日本 (5)　現代の世界と日本 ア　戦後の諸改革と国民生活の変化 イ　国際社会の動向と経済の発展 ウ　現代の世界と日本	(1)　歴史と生活 ア　衣食住の変化 イ　交通・通信の変化 ウ　現代に残る風習と民間信仰 エ　産業技術の発達と生活 オ　地域社会の変化 (2)　近代日本の形成と 19 世紀の世界 ア　国際環境の変化と幕藩体制の動揺 イ　明治維新と近代国家の形成 ウ　国際関係の推移と近代産業の成立 (3)　近代日本の歩みと国際関係 ア　政党政治の展開と大衆文化の形成 イ　近代産業の発展と国民生活 ウ　両大戦をめぐる国際情勢と日本 (4)　第二次世界大戦後の日本と世界 ア　戦後政治の動向と国際社会 イ　経済の発展と国民生活 ウ　現代の日本と世界

09 年版では，89 年版，99 年版と同様に，近代以降の日本の歴史を学ばせる内容構成になっている。99 年版から引き続き，「導入単元」（私たちの時代と歴史）があるが，新たに「歴史学習を深める単元」（近代の追究，現代からの探究）が組み込まれている。そして，地理的条件や世界の歴史との関連づけ(11) に配慮するような構成になっている。

09 年版　日本史 A	
(1)　私たちの時代と歴史	(2)　近代の日本と世界 ア　近代国家の形成と国際関係の推移 イ　近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 ウ　近代の追究 (3)　現代の日本と世界 ア　現代日本の政治と国際社会 イ　経済の発展と国民生活の変化 ウ　現代からの探究

④　日本史 B

89 年版では，古代から現代までの日本の歴史を隈無く取り扱う通史になっている。最後に「歴史学習を深める単元」（地域社会の歴史と文化）が組み込まれている。

99 年版では，89 年版と同様に，古代から現代までの日本の歴史を隈無く取り扱う通史になっている。他方，89 年版とは異なり，「導入単元」（歴史の考察）が組み込まれている。

09 年版では，89 年版，99 年版と同様に，古代から現代までの日本の歴史を隈無く取り扱う通史になっている。他方，89 年版，99 年版とは異なり，「歴史学習を深める単元」（歴史と資料，歴史の解釈，歴史の説明，歴史の論述）が組み込まれている。そして，日本史 A と同じように地理的条件や世界の歴史との関連づけ(12) に配慮するような構成になっている。

どのようにして歴史の授業を作るのか（1）

89年版　日本史B	99年版　日本史B
(1)　日本文化の黎明 ア　日本列島における人類文化の発生 イ　農耕の開始と社会生活の変化 (2)　古代国家と古代文化の形成 ア　国家の形成と大陸文化の摂取 イ　律令体制の推移と古代文化の形成 ウ　文化の国風化と地方の動向 (3)　中世社会の成立と文化の展開 ア　武家政権の成立と文化の新気運 イ　武家政権の展開と国際関係 ウ　社会・経済の変容と庶民文化の萌芽 (4)　幕藩体制の推移と文化の動向 ア　ヨーロッパ文化との接触と織豊政権 イ　幕藩体制の形成と鎖国 ウ　産業経済の発展と都市や農村の文化 エ　国際環境の変化と幕藩体制の動揺 (5)　近代日本の形成とアジア ア　欧米文化の導入と明治維新 イ　立憲体制の成立と政治思想 ウ　国際関係の推移と近代産業の発展 エ　近代文化の発展と都市や農村の生活 (6)　両世界大戦と日本 ア　第一次世界大戦と日本の経済 イ　政党政治の発展と大衆文化の形成 ウ　第二次世界大戦と日本 (7)　現代の世界と日本 ア　戦後の諸改革と国民生活の変化 イ　国際社会の動向と経済の発展 ウ　現代の世界と日本 (8)　地域社会の歴史と文化	(1)　歴史の考察 ア　歴史と資料 (ア)　資料をよむ (イ)　資料にふれる イ　歴史の追究 (ア)　日本人の生活と信仰 (イ)　日本列島の地域的差異 (ウ)　技術や情報の発達と教育の普及 (エ)　世界の中の日本 (オ)　法制の変化と社会 ウ　地域社会の歴史と文化 (2)　原始・古代の社会・文化と東アジア ア　日本文化の黎明 イ　古代国家の形成と東アジア ウ　古代国家の推移と社会の変化 (3)　中世の社会・文化と東アジア ア　武家政権の成立 イ　武家政権の展開と社会の変化 (4)　近世の社会・文化と国際関係 ア　織豊政権と幕藩体制の形成 イ　産業経済の発展と都市や村落の文化 ウ　国際環境の変化と幕藩体制の動揺 (5)　近代日本の形成とアジア ア　明治維新と立憲体制の成立 イ　国際関係の推移と立憲国家の展開 ウ　近代産業の発展と近代文化 (6)　両世界大戦期の日本と世界 ア　第一次世界大戦と日本の経済 イ　政党政治の発展と大衆文化の形成 ウ　第二次世界大戦と日本 (7)　第二次世界大戦後の日本と世界 ア　戦後政治の動向と国際社会 イ　経済の発展と国民生活 ウ　現代の日本と世界

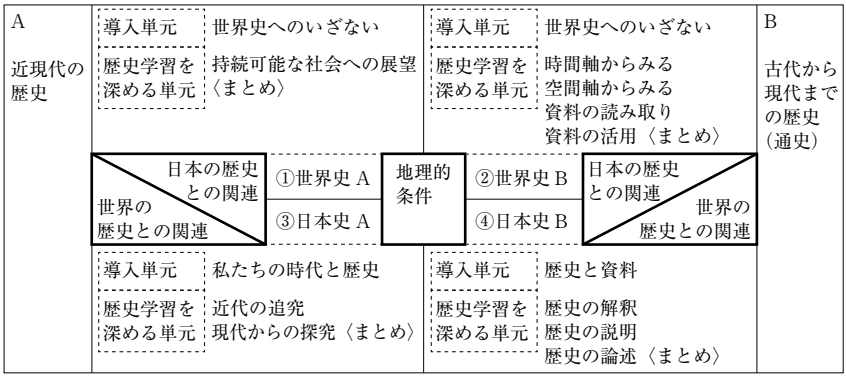
09年版　日本史B	
(1)　原始・古代の日本と東アジア ア　歴史と資料 イ　日本文化の黎明と古代国家の形成 ウ　古代国家の推移と社会の変化 (2)　中世の日本と東アジア ア　歴史の解釈 イ　中世国家の形成 ウ　中世社会の展開 (3)　近世の日本と世界 ア　歴史の説明 イ　近世国家の形成 ウ　産業経済の発展と幕藩体制の変容	(4)　近代日本の形成と世界 ア　明治維新と立憲体制の成立 イ　国際関係の推移と立憲国家の展開 ウ　近代産業の発展と近代文化 (5)　両世界大戦期の日本と世界 ア　政党政治の発展と大衆社会の形成 イ　第一次世界大戦と日本の経済・社会 ウ　第二次世界大戦と日本 (6)　現代の日本と世界 ア　現代日本の政治と国際社会 イ　経済の発展と国民生活の変化 ウ　歴史の論述

⑤　まとめ

09年版の世界史A，世界史B，日本史A，日本史Bの関係を図に表すと，図1のようになる。

大まかな特徴を整理すると，以下のようになる。

図1　世界史A，世界史B，日本史A，日本史Bの関係



① A は近現代史，B は古代から現代までの通史となっている。
② どの科目も地理的条件に配慮するようになっている。
③ 世界史は日本の歴史との関連づけに，日本史は世界の歴史との関連づけに，配慮するようになっている。
④ どの科目も「導入単元」を設定し，歴史学習へいざなおうとしている。
⑤ どの科目も「歴史学習を深める単元」を設定し，受験に必要な歴史（歴史的事象を覚えるだけの歴史）にならないような工夫をしている。そして，「歴史学習を深める単元」の最後に，〈まとめ〉を設定している。

他科目との連携に関しては，地理や日本史あるいは世界史との関連が示されているが，歴史の科目全体で歴史学習を深めさせることに関して一貫性があるわけではない。各科目がそれぞれ自己主張をしている感がある。

以下で，「導入単元」と「歴史学習を深める単元」に焦点を当て，検討する。

2） 地理歴史科の「導入単元」とはどのようなものか

09 年版の学習指導要領の記述をもとに，「導入単元」が何をめざしているのか，その目標達成のために何をしているのかを各科目毎に検討し，最後に各科目相互の関係について検討する。

「導入単元」がある世界史 A，世界史 B，日本史 A，日本史 B の関連する部分の記述を 4 つの項目に分類[(13)] し，整理したものが表 1 である。

① 世界史 A

「⑴世界史へのいざない」が検討対象である。α）考察は，地理的条件，日本の歴史との関連に関わる内容が示されている。β）技能は，「世界史学習の基本的技能に触れさせる」ことが示され，具体的には地図や写真を読み取ったり，年表や地図などに表すことが示されている。γ）関心は，「地理と歴史への関心

表1　世界史A，世界史B，日本史A，日本史Bの「導入単元」

	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B
	(1)　世界史へのいざない	(1)　世界史への扉	(1)　私たちの時代と歴史	(1)　原始・古代の日本と東アジア　ア　歴史と資料
α）考察	地理的条件，日本の歴史との関連に関わる内容	地理的条件，日本の歴史との関連，日常生活との関連に関わる内容	近現代と現在の関連に関わる内容	
β）技能	世界史学習の基本的技能に触れさせる			歴史を考察する基本的な方法（資料に基づいて歴史が叙述されていること）
	具体 地図や写真を読み取ったり，年表や地図などに表す			具体 遺跡や遺物，文書など様々な歴史資料の特性に着目する
γ）関心	地理と歴史への関心を高める	地理と歴史への関心を高める	歴史への関心を高める	歴史への関心を高める
δ）習得	世界史学習の意義に気づかせる	世界史学習の意義に気づかせる	歴史を学ぶ意義に気づかせる	文化財保護の重要性に気づかせる
	具体 「自然環境と人類の活動の相互作用」や「日本の歴史と世界の歴史の関連性」に気づかせる	具体 「地理的視点の重要性」，「日本の歴史と世界の歴史の関連性」に気づかせる 「日常生活と世界の歴史の関連性」に気づかせる		

を高める」ことが示されているが，具体的には示されていない。δ）習得は，「世界史学習の意義に気づかせる」ことが示され，具体的には「自然環境と人類の活動の相互作用」や「日本の歴史と世界の歴史の関連性」に気づかせることが示されている。

② 世界史 B

「⑴世界史への扉」が検討対象である。α）考察は，地理的条件，日本の歴史との関連，日常生活との関連に関わる内容が示されている。γ）関心は，世界史 A と同様に，「地理と歴史への関心を高める」ことが示されているが，具体的には示されていない。δ）習得は，「世界史学習の意義に気づかせる」ことが示され，具体的には，世界史 A と同様に「地理的視点の重要性」，「日本の歴史と世界の歴史の関連性」に気づかせることが示され，更に世界史 B 独自のものとして「日常生活と世界の歴史の関連性」に気づかせることが示されている。

③ 日本史 A

「⑴私たちの時代と歴史」が検討対象である。世界史 A，B ともに，大項目，中項目と記述があったが，日本史 A は大項目だけである。α）考察は，近現代と現在の関連に関わる内容が示されている。γ）関心は，「歴史への関心を高める」ことが示されているが，具体的には示されていない。δ）習得も，「歴史を学ぶ意義に気づかせる」ことが示されているが，具体的には示されていない。

④ 日本史 B

「⑴原始・古代の日本と東アジア」が検討対象である。α）考察は，歴史と資料に関する内容が示されている。β）技能は，「歴史を考察する基本的な方法（資料に基づいて歴史が叙述されていること）」が示され，具体的には，「遺跡や遺物，文書など様々な歴史資料の特性に着目する」ことが示されている。γ）関心は，日本史 A と同様に，「歴史への関心を高める」ことが示されているが，具体的には示されていない。δ）習得は，「文化財の保護に重要性に気づかせる」ことが示されているが，具体的には示されていない。

⑤　小括

「導入単元」が何をめざしているのか，その目標達成のために何をしているのかを各科目毎に検討した。各科目相互の関係については表1に整理した。表1のγ）関心やδ）習得を見ると，学習指導要領が意図しているものが明らかである。「導入単元」は，歴史を学ぶ意義に気づかせることがめざされている。そして，これから学ぶ科目の関心を高めることがめざされている。世界史の場合は，特に地理への関心も高めることがめざされている。

3）地理歴史科の「歴史学習を深める単元」とはどのようなものか

09年版の学習指導要領の記述をもとに，「歴史学習を深める単元」が何をめざしているのか，その目標達成のために何をしているのかを各科目毎に検討し，最後に各科目相互の関係について検討する。

「導入単元」と同様に，4つの項目に分類し，整理したものが表2，表3である。

①　世界史A

「⑶地域社会と日本」の「オ　持続可能な社会への展望」が検討対象である。この「⑶オ」は，〈まとめ〉である。α）考察は，「現代世界の特質や課題」に関する内容が示されている。β）技能は，「歴史的観点から資料を活用して探究し，その成果を論述し，討論する」ことが示されている。δ）習得は，「世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現についての展望」が示されている。

②　世界史B

「⑵諸地域世界の形成」の「エ　時間軸からみる諸地域世界」，「⑶諸地域世界の交流と再編」の「エ　空間軸からみる諸地域世界」，「⑷諸地域世界の結合と変容」の「オ　資料からよみとく歴史の世界」，「⑸地球世界の到来」の「オ　資料を活用して探究する地球世界の課題」の4つが検討対象である。

「⑵エ」のα）考察は，「時間軸からみる諸地域世界」に関する内容が示されている。β）技能は，「世界史を時間的なつながりに着目して整理し，表現する」ことが示されている。具体的には，「関連する事項を年代順に並べ，因果関係で結び付け，地域世界毎に比較する」ことが示されている。

「⑶エ」のα）考察は，「空間軸からみる諸地域世界」に関する内容が示されている。β）技能は，「世界史を空間的なつながりに着目して整理し，表現する」ことが示されている。具体的には，「諸地域世界の接触や交流などを地図上に表し，世紀毎に比較する」ことが示されている。

「⑷オ」のα）考察は，「資料からよみとく歴史の世界」に関する内容が示されている。β）技能は，「資料を多面的・多角的に考察し，読み解く」ことが示されている。具体的には，「その時代の資料を選択して，資料の内容をまとめ，その意図やねらいを推測し，資料への疑問を提起する」ことが示されている。

「⑸オ」は，〈まとめ〉である。α）考察は，「資料を活用して探究する地球世界の課題」に関する内容が示されている。β）技能は，「資料を活用し表現する」ことが示されている。具体的には，「歴史的観点から資料を活用して探究し，その成果を論述し，討論する」ことが示されている。δ）習得は，「これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現についての展望」が示されている。

③　日本史 A

「⑵近代の日本と世界」の「ウ　近代の追究」，「⑶現代の日本と世界」の「ウ現代からの探究」の２つが検討対象である。

「⑵ウ」のα）考察は，「近代からの探究」に関する内容が示されている。具体的には，産業と生活，国際情勢と国民，地域社会の変化などに関する内容が示されている。β）技能は，「歴史的な見方や考え方」が示されている。具体的には，「具体的な歴史的事象と関連させ，追究し，表現する」ことが示されてい

る。δ）習得は，「近代における政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっていること」が示されている。

「(3)ウ」は，〈まとめ〉である。α）考察は，「現代からの探究」に関する内容が示されている。具体的には，近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象に関する内容が示されている。β）技能は，「歴史的な見方や考え方」が示されている。具体的には，「近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させ，資料を活用して探究し，その解決に向けた考えを表現する」ことが示されている。δ）習得は，「現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであること」が示されている。

④　日本史 B

「(2)中世の日本と東アジア」の「ア　歴史の解釈」，「(3)近世の日本と世界」の「ア　歴史の説明」，「(6)現代の日本と世界」の「ウ　歴史の論述」の３つが検討対象である。

「(2)ア」のα）考察は，「歴史の解釈」に関する内容が示されている。β）技能は，「歴史の展開における諸事象の意味や意義の解釈」が示されている。具体的には，「歴史資料を含む諸資料を活用して，歴史的事象の推移や変化，相互の因果関係を考察する」ことが示されている。

「(3)ア」のα）考察は，「歴史の説明」に関する内容が示されている。β）技能は，「歴史的事象には複数の歴史的解釈が成り立つこと」が示されている。具体的には，「それぞれの根拠や論理を踏まえて，筋道立てて考えを説明する」ことが示されている。

「(6)ウ」は，〈まとめ〉である。α）考察は，「歴史の論述」に関する内容が示されている。具体的には，社会と個人，世界の中の日本，地域社会の歴史と生活などに関する内容が示されている。β）技能は，「歴史的な見方や考え方」が示されている。具体的には，「資料を活用して探究し，考えを論述する」ことが示されている。

⑤ 小括

「歴史学習を深める単元」が何をめざしているのか，その目標達成のために何をしているのかを各科目毎に検討した。各科目相互の関係について，表2，3に整理した。

表2　世界史A，世界史Bの「歴史学習を深める単元」

	世界史A	世界史B			
	(3)　地球社会と日本	(2)　諸地域世界の形成	(3)　諸地域世界の交流と再編	(4)　諸地域世界の結合と変容	(5)　地球世界の到来
	オ　持続可能な社会への展望	エ　時間軸からみる諸地域世界	エ　空間軸からみる諸地域世界	オ　資料からよみとく歴史の世界	オ　資料を活用して探究する地球世界の課題
α）考察	主題学習 現代世界の特質や課題	主題学習	主題学習	主題学習	主題学習
β）技能		世界史を時間的なつながりに着目して整理し，表現する	世界史を空間的なつながりに着目して整理し，表現する	資料を多面的・多角的に考察し，読み解く	資料を活用し表現する
	具体 歴史的観点から資料を活用して探究し，その成果を論述し，討論する	具体 関連する事項を年代順に並べ，因果関係で結び付け，地域世界毎に比較する	具体 諸地域世界の接触や交流などを地図上に表し，世紀毎に比較する	具体 その時代の資料を選択して，資料の内容をまとめ，その意図やねらいを推測し，資料への疑問を提起する	具体 歴史的観点から資料を活用して探究し，その成果を論述し，討論する
δ）習得	世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現についての展望				これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現についての展望

表3　日本史A，日本史Bの「歴史学習を深める単元」

	日本史A		日本史B		
	(2)　近代の日本と世界	(3)　現代の日本と世界	(2)　中世の日本と東アジア	(3)　近世の日本と世界	(6)　現代の日本と世界
	ウ　近代の追究	ウ　現代からの探究	ア　歴史の解釈	ア　歴史の説明	ウ　歴史の論述
α）考察	主題学習 産業と生活，国際情勢と国民，地域社会の変化など	主題学習 近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象			主題学習 社会と個人，世界の中の日本，地域社会の歴史と生活など
β）技能	歴史的な見方や考え方	歴史的な見方や考え方	歴史の展開における諸事象の意味や意義の解釈	歴史的事象には複数の歴史的解釈が成り立つこと	歴史的な見方や考え方
	具体 具体的な歴史的事象と関連させ，追究し，表現する	具体 近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させ，資料を活用して探究し，その解決に向けた考えを表現する	具体 歴史資料を含む諸資料を活用して，歴史的事象の推移や変化，相互の因果関係を考察する	具体 それぞれの根拠や論理を踏まえて，筋道立てて考えを説明する	具体 資料を活用して探究し，考えを論述する
δ）習得	近代における政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっていること	現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであること			

(1)　Aに共通なもの，違うものは何か

世界史Aも，日本史Aも，最後に〈まとめ〉を置いている。しかしそれらの中身は違っている。

世界史Aは，持続可能な社会をどうするかという展望を考えさせようとして

いる。

日本史Aは，最後に〈まとめ〉を置いているが，それ以前に「歴史学習を深める単元」を置いている。それ以前の「近代の単元」では，具体的な歴史的事象との関連，まとめの「現代の単元」では身の回りの社会的事象との関連を考察させることで，〈歴史的な見方・考え方〉を培わせようとしている。

⑵ Bに共通なもの，違うものは何か

世界史Bも，日本史Bも，最後に〈まとめ〉を置いているが，それ以前に「歴史学習を深める単元」を置いている。それらの中身は違っている。

世界史Bは，これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現についての展望を考えさせようとしている。それをおこなわせるために，幾つかの段階を踏ませようとしている。時間的なつながりでは因果関係（年表）に，空間的なつながりでは地理的関係（地図）に着目させるようとしている。資料の読み取りでは，資料の内容をまとめさせた上で，資料の意図やねらいを疑わせようとしている。資料の活用・探究では，今までの成果をもとに，資料を活用させ探究させ，その成果を論述させ，討論させようとしている。時間的なつながり，空間的なつながりを考察させた上で，資料を様々な角度で読み解かせ，資料を活用・探究させることで〈歴史的な見方・考え方〉を培わせようとしている。

日本史Bは，歴史という言葉をもとに歴史学習を深める視点を提示している。歴史を考察する基本的な方法（資料に基づいて歴史が叙述されていること）を「導入単元」で学ばせた後，資料にはどのような特徴があるのか，どのようにその資料と対峙するのかを学ばせようとしている。歴史の解釈では，資料をどのように読み取るのかを学ばせようとしている。歴史の説明では，歴史的事象には一つの解釈しか成り立たないのではなく，複数の解釈が成り立つことを学ばせようとしている。歴史の論述は，歴史は解釈されたものであり，その解

釈は複数有り，自分自身で資料を活用させて自分なりの解釈を鍛えさせようとしている。つまり，歴史学習を深める手立てを一気に学ばせるのではなく，歴史の解釈や歴史の説明に関しては，それぞれの単元の冒頭で，歴史の論述に関しては，最後の最後のまとめで学ばせようとしている。

⑶　世界史に共通なもの，違うものは何か

世界史A，Bとも，最後に〈まとめ〉を置いている。両者は，持続可能な社会についての展望という点で一致している。しかし，世界史Bは，〈まとめの単元〉以前にも「歴史学習を深める単元」を置いている。つまり，幾つかの段階を踏ませて，持続可能な社会についての展望を考えさせようとしている。

⑷　日本史に共通なもの，違うものは何か

日本史A，Bとも，最後に〈まとめ〉を置いている。両者は，「資料を活用して探究し」「その解決に向けた考えを表現する（日本史A）」，「考えを論述する（日本史B）」ことで〈歴史的な見方・考え方〉を培わせるという点で一致している。

⑸　なぜ歴史を学ぶのか，そのためにどういうことをさせようとしているのか

表2，3のβ）技能やδ）習得を見ると，学習指導要領が意図しているものが明らかである。「歴史学習を深める単元」の中の〈まとめ〉の部分は，δ）習得として，持続可能な社会の実現について展望すること，β）技能として，歴史資料を活用し，表現することがめざされている。

「導入単元」で示された地理的条件，日本の歴史・世界の歴史との関連，日常生活との関連について，「歴史学習を深める単元」で考察させようとしている。世界史Bでは，時間軸，空間軸から考察させたり，歴史資料を読み込ませようとしている。日本史Bでは，歴史的事象の推移や変化，相互の因果関係を理解

させるために歴史資料を読み込ませたり，「解釈は一つとは限らない」ことを理解させるために複数の歴史資料を読み込ませようとしている。

4）まとめ ── 次稿への展望

これまで，学習指導要領の記述をもとに分析してきた。分析の結果，世界史Aとか，世界史Bといった科目毎に，内容構成の論理が見られた。例えば，通史だったり，近現代史重視だったりといったものである。一方で，歴史の流れだけでなく，「歴史」をどのように考えるのかについても内容構成の中に含まれていた。学習指導要領を作成した方々の苦心の跡が科目毎にうかがえた。

しかし，地理歴史科という教科全体で，何のために歴史学習をするのか，歴史学習を通じてどのような知識や技能を培うのかが言明されていたかどうかは疑わしい。

「導入単元」や「歴史学習を深める単元」の登場により，以前の学習指導要領に比べれば，内容重視から方法重視に変換していると言える。しかし，要の部分がはっきりしていないと授業作りの現場は困る。

次稿では，学習指導要領に準拠した教科書レベルで，何のために歴史学習をするのか，歴史学習を通じてどのような知識や技能を培わせようとしているのかを検討する。

註

（1） 学習指導要領には，どのような目標で，どのような内容を教えるべきか，どのようなことに配慮すべきかが書かれているだけで，具体的にどのように教えるかは細かく書かれていない。

（2） 教科書には，児童・生徒が自主的に学ぶことのできる問いが記されている。児童・生徒が学習内容を理解しやすいように，教科書には，カラー化された写真，図などの資料が載せられている。

（3） 教職課程の図書室兼セミナー室である。

（4）「社会科・地理歴史科教育研究2」と「社会科・公民科教育研究2」の授業で作

業を行っている。

（5） 雑談の時間になっている班があれば，筆者が介入する。その際，学習指導案の指導過程にある「学習活動」や「指導上の留意点」について筆者が問い質す。例えば，「学習活動に書かれている〈●●を理解する〉にはどうしたらよいのか」を聞いたりして，学生が考える「指導上の留意点」を明示化させる。

（6） 現行学習指導要領だけ見ても，特徴が分かりづらいので，過去の学習指導要領と比較，検討する。戦後の全ての学習指導要領を比較，検討するのが理想であるが，紙幅の関係で直近3つの学習指導要領に絞る。

（7）「導入単元」については，学習指導要領で明示されているわけではない。筆者の命名である。

（8）「歴史学習を深める単元」についても，学習指導要領で明示されているわけではない。筆者の命名である。歴史的な見方・考え方を生徒に培わせる単元を意味する。

（9） 学習指導要領の目標には「近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」と書かれている。

(10) 学習指導要領の目標には「世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」と書かれている。

(11) 学習指導要領の目標には「我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け，現代の諸課題に着目して考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」と書かれている。

(12) 学習指導要領の目標には「我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ，我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」と書かれている。

(13) 学習指導要領の記述を文節毎に分け，生徒に考察させる内容〈α〉考察〉，生徒に培わせる技能〈β〉技能〉，生徒に持たせる関心〈γ〉関心〉，生徒に習得させる内容〈δ〉習得〉の4つに，筆者が分類した。